

奈良国立文化財研究所要項

一 沿革

1、文化財保護法（昭和25年法律第214号）の制定
によつて文化財に関する調査研究、資料の作成及
びその公表を行うために、元奈良県立商工館の施
設を奈良県より寄附を受けて昭和27年4月1日下
記の通り発足した。

2、国立文化財保護法第23条第2項抜萃)
記（文化財保護法第23条第2項抜萃）

員会規則第5号（昭和29年6月29日文化財保護委員
会規則第一号第一次改正）。
奈良国立文化財研究所の組織規程
(奈良国立文化財研究所の組織)
第一条 奈良国立文化財研究所の所掌事務を分掌さ
せるため左の四室を置く。
美術工芸研究室
建造物研究室
歴史研究室
庶務室

（美術工芸研究室の所掌事務）
第二条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、
工芸品、書跡その他建造物以外の有形文化財並び
に工芸技術に関する調査研究並びにその結果の普
及及び活用に関する事務をつかさどる。
（建造物研究室の所掌事務）
第三条 建造物研究室においては、建造物に関する
調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する
事務をつかさどる。
（歴史研究室の所掌事務）
第四条 歴史研究室においては、考古及び史跡に関
する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関
する事務をつかさどる。
(庶務室の所掌事務)

名称 奈良国立文化財研究所
位置 奈良市
備考 奈良国立文化財研究所の所在地は次の
通りである。
奈良市春日野町五〇番地
電話 奈良局五五七五
3、昭和27年度は主として寄附を受けた本館の内部
を研究施設に改装することと創設準備を終始した。
4、昭和28年5月15日、内外施設が整備したので、
数多くの関係者の来臨を仰ぎ開所式を行つた。

二 組織

文化財保護法（昭和25年法律第214号）第23条4
項の規定に基づき奈良国立文化財研究所組織規程を
次のように定める（昭和27年3月25日文化財保護委
員会規則第一号第一次改正）。

第五条 庶務室においては、左の事務をつかさどる。
（庶務室の所掌事務）

（庶務室の所掌事務）
第五条 庶務室においては、左の事務をつかさどる。
（庶務室の所掌事務）

一、別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲
における職員の人事に関すること。
二、公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に
関すること。
三、経費及び収入の予算、決算その他会計に関する
こと。
四、行政財産及び物品の管理に関すること。
五、職員の福利厚生に関すること。
附 則
この規則は昭和27年4月1日から施行する。
附則（昭和29年6月29日文化財保護委員会規
則第一号）

この規則は、昭和29年7月1日から施行する。

I 美術工芸研究室
A 西大寺叡尊の研究
小林剛 浜田隆
杉山二郎 岡本康子
前々より引き行なつてゐる西大寺叡尊の研究に
おいては、海童王寺、法華寺、道明寺、延命寺、金
峯山寺、金沢文庫などを調査した。

B 俊乗房重源の研究
田沢坦 小林剛
杉山二郎

俊乗房重源の研究は以前より引き行なつてい
て、その主要なものはほとんど調査を終了した。本
年度は『作善集』に記されていて、現在ほとんどわ

からなくなつてゐる個所について、探索的な調査を行なつた。例えば丹波高山寺附近、摂津の昆陽寺、奈良山辺の西方寺、河内谷山池の如くである。

C 藤原彫刻の研究

小林 剛 杉山二郎

前年度に引続いて行なつてゐるが、本年度は当麻寺講堂像、大日寺の五智如来像、永觀堂の諸像、道明寺の十一面觀音像、大藏寺の薬師、地藏、毘沙門天像、鑿定寺の千手觀音像等を調査した。

D 舍利塔の研究

守田公夫

舍利塔の様式的研究の一環として東大寺本坊にある舍利塔を調査した。この舍利塔は唐招提寺の金龜舍利塔の摸作で室町期の作品で、唐招提寺舍利塔研究に唯一の副資料となる遺品とみられる。

E 厨子の研究

守田公夫

近畿地区を先づ第一段階として、その地区的諸社寺に残存する厨子の調査研究に當り、厨子の美術史的研究をする。東大寺知足院の厨子、東大寺圖書館の厨子および、興福院の千体藥師厨子をその研究の一環として選び調査した。

F 小袖研究

守田公夫

近世初期の小袖研究の一環として京都田畠家の小袖類を調査した。これらの作品は桃山期から江戸全期にわたつての作品であるが、これらを美術史的染織史的に研究する。

G 請來目録の整理———安家の八家請來録を中心

に——
安然撰述の八家請來録は平安時代初期の入唐八家の請來品を分類したものとして著名であるがその蒐集には不備があり、又現在それを整理したものもないでの古写本や諸家請來目録によつて校合を加え研究の資料とする。

H 平安時代仏教絵画の調査研究

浜田 隆

平安時代仏教絵画の代表的作品としての西大寺十二天、東寺五大尊十二天、その他の密教關係の絵画の調査を進め、その背後にある経軌・図像、及びそれらの請來者との関係などを究明すること。これと併行して顔料や彩色技法の特色をも明らかにすることを目的とする。

I 初期貞宗絵画の研究

浜田 隆

初期真宗關係絵画として、とくに地方布教に功績の多かつた存覚上人の仏画關係の事蹟を存覚袖日記を中心に分類整理し、中世の新興宗教たりし真宗の作画活動を究明し、中世仏教絵画の変遷のあり方を明らかにさせたい希望である。

J 大乘院庭園の復原的研究

森 蘿

昭和三十一年度までは大乘院が室町時代中期のものであるとの推定で研究したが、藤原時代のものとの類似を見出したので、三十二年度には天理市永久寺其他藤原鎌倉時代庭園遺跡の実測調査を行つてその類似点を確認した。室町中期の比較例として越前、

加賀の例を調査し、又室町末の例として妙心寺退院、靈雲院、近江福田寺の調査を行つて比較資料とした。

K 解体修理に伴う調査研究（法隆寺東室）

浜田 隆

現存する数少い僧房建築の一つである東室を、修理の機会をとらえて、奈良県教育委員会に協力して調査を行つた。

L 飛鳥寺発掘調査

鈴木嘉吉

飛鳥寺発掘調査は、七八月行われ、塔、北回廊、

M 川原寺発掘調査

坪井清足

講堂の遺址が発掘された。塔では方八尺に及ぶ巨大な心礎と金銅製舍利容器および各種の舍利埋納物が発見された。推古天皇元年正月十五日（五九三AD）に納めた舍利埋納物が、一部でも検出されたことは、貴重な発見であつた。回廊は横長の矩形を画しました講堂では、新しい基壇構造が発見された。

N 川原寺発掘調査

森 蘿

田沢 坦

坪井清足

金 閔

樋口 恵

浅野 清

杉山信三

鈴木嘉吉

工藤圭章

史跡川原寺の発掘調査は十一と三月まで行われた。塔、西金堂、中門、回廊、南大門の遺址が発掘され、

中金堂の前に塔と対置された西金堂という伽藍配置が初めて確認された。また西金堂の基壇構成は、未だ例を見ない構造のものであった。西金堂の下から創建以前の溝の遺構を検出した。

N 歴史研究室

N 興福寺所蔵古文書典籍調査

前年度より引き継いで興福寺所蔵の古文書典籍等の調査を行い目録、調書の作製、写真撮影を行うと共に目ぼしいものの内容調査を行つた。

O 高山寺聖教類調査

杉山信三 浜田 隆
田中 稔

前年度田中が実施した調査により建築、絵画関係資料が発見された為この調査を古文書、建築、絵画各担当者が協力して行うこととした。調書の作製、写真撮影を行うと共に目ぼしいものの内容調査を行つた。

P 古瓦の編年的研究

坪井 清足

飛鳥寺出土瓦類の分類研究を行つた。その結果我國で最初に百濟工人の指導によつて製作された瓦の実体を明確にすることが出来た。また南都元興寺の僧房であつた極楽坊の丸、平瓦との比較研究を行い、飛鳥寺より瓦類を多量に元興寺へ運搬使用したことを見明らかにした。

Q 弥生式時代墓制の研究

金関 恵

下関市安岡町梶原浜遺跡の調査をおこない、弥生式時代前期に属する4基の箱式棺、2基の石門を発

掘した、これらの石棺、石門はその直上の旧地表に墓標、または墓域を割する特殊な施設とともに残つてゐることが認められ、弥生式時代墓制の上に新形式

を加える事ができた。

V 文部省科学研究費交付金による研究

年 度	研 究 課 題	交 付 金 の 種 別	研 究 代 表 者	金 額
昭和 31 年 度	和様彫刻の形成とその発展に関する研究 天竺様の成立と影響 鎌倉幕府御家人制度の研究 特に西国御家人を中心として 南無阿弥陀仏作善集の調査研究 主として造形美術に関連ある事象について	各個研究 助成補助金	小林 剛 鈴木嘉吉 田中 稔 田沢 坦	100,000円 25,000円 20,000円 150,000円
昭 和 32 年 度	同 各個研究 田中 稔 田沢 坦	同 田中 稔 田沢 坦		

I 四 研 究 発 表

A 昭和29年4月24日（於本所講堂）

平城宮跡発掘建築遺跡について 浅野 清

平城宮跡出土遺物について 鈎田 正哉

平城宮跡出土遺物と大陸文化との関連

天竺様建築について 小泉顕夫

修学院離宮建築及庭園の復原的研究 森 蘭

平城宮跡、興福寺発掘調査報告講演会

西大寺（美術工芸）調査報告講演会

興正善隣等の胎内文書について 小林 剛

舍利塔について 守田公夫

絵画について 浜田 隆

大安寺及慈師寺の発掘 田中一郎

余良高校々庭に於ける遺跡について 浅野 清

院政時代の寺院建築 森 信三

興福寺食堂遺跡について 杉山信三

平城宮跡の発掘について 坪井清足

院政時代の寺院建築 坪井清足

西大寺塔址発掘調査報告 小林 剛

後乘房重源の事蹟について

昭和30年5月21日（於本所講堂）

昭和31年5月26日（於現地）

- | | | | | | |
|---|-------------------------|----------------------|-------------|----------------------|----------|
| J | 飛鳥寺第一次發掘調查現地報告会 | 二 沢隆寺資財帳 | 一卷 法隆寺藏 | 三 光明峰寺入道前關白道家公處分狀 | 一帖 陽明文庫藏 |
| I | 昭和31年10月20日（於元興寺極樂坊） | 四 阿弥陀悔過料資財帳（重文） | 一卷 東大寺藏 | 五 西大寺資財流記帳 | 一卷 東福寺藏 |
| K | 昭和31年12月22日（於現地） | 六 招提寺建立緣起（重文） | 一帖 同 | 七 唐招提寺解 | 一卷 醍醐寺藏 |
| L | 昭和32年3月23日（於毎日新聞大阪本社講堂） | 八 戒律伝來記上巻 | 一卷 唐招提寺藏 | 九 上宮聖德法王帝説（重文） | 一卷 東大寺藏 |
| M | 昭和32年7月5日（於本所） | 十 日本国現報善惡靈異記上巻（重文） | 一卷 知恩院藏 | 十 東大寺統要錄（重文） | 一冊 同 |
| N | 安達時顯施入の法華寺一切經について | 十一 東大寺統要錄（重文） | 一冊 同 | 十一 東大寺統要錄（重文） | 一冊 法隆寺藏 |
| O | 飛鳥寺第三次發掘調查報告会 | 十二 僧綱補任（重文） | 一冊 同 | 十二 僧綱補任（重文） | 一冊 神護寺藏 |
| P | 昭和32年12月21日（於現地） | 十三 造興福寺記 | 一冊 同 | 十三 造興福寺記 | 一冊 同 |
| Q | 東大寺指図堂觀迦如來（善円作）を中心として | 十四 建久御巡礼記 | 一冊 天理図書館藏 | 十四 建久御巡礼記 | 一冊 法隆寺藏 |
| R | 田中稔 | 十五 南都七大寺巡礼記（旧菅家本） | 一冊 東大寺藏 | 十五 南都七大寺巡礼記（旧菅家本） | 一冊 神護寺藏 |
| S | 光学的方法による元興寺極樂坊色彩印仏の研究 | 十六 諸寺建立次第（旧菅家本） | 一冊 同 | 十六 諸寺建立次第（旧菅家本） | 一冊 同 |
| T | 飛鳥寺第三次發掘調査報告会 | 十七 黑草紙 | 一冊 薬師寺藏 | 十七 黑草紙 | 一冊 東大寺藏 |
| U | 昭和32年5月15・16日（於木所） | 十八 内山寺置文 | 一卷 東京国立博物館藏 | 十八 内山寺置文 | 一冊 東大寺藏 |
| V | 川原寺第一次發掘調査報告会 | B 平城宮跡發掘調査の出土遺物 | 一冊 同 | B 平城宮跡發掘調査の出土遺物 | 一冊 同 |
| W | 昭和28年5月15・16日（於木所） | C 仏師運慶及修學院離宮建築庭園関係資料 | 一冊 同 | C 仏師運慶及修學院離宮建築庭園関係資料 | 一冊 同 |
| X | 開所記念特別展観 | D 修學院関係古図 | 一冊 同 | D 修學院関係古図 | 一冊 同 |
| Y | 大安寺資財帳（重文） | E 修学院御茶屋（下）指図 | 一冊 同 | E 修学院御茶屋（下）指図 | 一冊 同 |
| Z | 一 卷 正暦寺藏 | F 宮内庁書陵部藏 | 一冊 同 | F 宮内庁書陵部藏 | 一冊 同 |

